

医学系研究科 保健学専攻

学位プログラム： 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン 地域の病理医不足を補う病理・細胞診断
授与する学位： 修士（保健学）

教育目標

大阪大学医学系研究科保健学専攻は、「地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コース」において以下の教育目標を定めています。細胞検査の専門家である細胞検査士を目指す臨床検査技師の学生を対象に、病理医と連携したテレパソロジー診断に対応できる知識を備えた細胞検査士を育成することを目指しています。また、病理学に関連した研究を行うことによって、細胞検査に関する研究・後進の育成を行うことができる人材の育成も目標としています。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

最新の細胞診断学のみならず、病理医の不足する地域で活躍できるデジタルパソロジー等の専門知識を備えた細胞検査士を養成し、将来、認定病理検査技師になるために必要な知識を身につけさせます。さらに、ホモロジープロファイル法など新たな画像解析技術を応用したAI診断法の開発、様々なパターンを示すがんの細胞像と薬剤感受性との関連についての研究を行うことで高度な専門性と学識を習得させます。

○高度な教養

地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コースで培った教養を発展させて、これからの細胞検査業界を牽引し、次世代のがん細胞診を実践・開発し、創薬研究にも携われる人材を養成します。

○高度な国際性

国際学会、国内学会に参加し、発表や質疑応答を通して、国際社会に通用する最先端の知識、技術、それを発信する術を習得させます。また、英語論文の読み書きを実際に行うことで、臨床業務にとどまらず、研究を推進し、国際社会でも活躍できる細胞検査士を育成します。

○高度なデザイン力

ゲノム医療に対応したこれからの時代の臨床検査、細胞検査を考案できる能力を学び、検査学の発展に寄与できる人材を育成します。また、細胞検査学、分子生物学、ゲノム科学などを融合した多面的な視点での研究を進めることができる能力を養います。

○独自の教育目標

地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コースでは、細胞検査士の養成にとどまらず、これからの医療の発展に対応、貢献できる人材、臨床検査学、細胞検査学をはじめとする最先端の研究を進めることができる人材の育成を目指します。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のディプロマ・ポリシーのもと、「地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コース」では以下のとおりディプロマ・ポリシーを定めています。病理学に関連した研究を行うことによって、細胞検査に関する研究・後進の育成を行うことができる学生を受け入れ、学位（修士（保健学））を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・医療科学、特に細胞検査学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている

○高度な教養

- ・医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる

○高度な国際性

- ・国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している

○高度なデザイン力

- ・学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる

- ・課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築ができる

○独自の学習目標

- ・ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学及び医学系研究科保健学専攻のカリキュラム・ポリシーのもと、「地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コース」では以下のとおりカリキュラム・ポリシーを定めています。柔軟な思考力、高度な医療の知識、研究者としての高い倫理性が持てるような教育システムになっています。

<教育課程編成の考え方>

博士前期課程では、医療科学の領域の専門分野の研究に必要な最先端の高度な講義、演習、実験、実習を履修させ、指導教員からの研究指導の下に修士論文を作成させます。

必要な授業科目を履修する過程において、医療科学の領域で研究を遂行する基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養を身につけさせ、演習での発表や研究の進捗状況報告の過程の中で研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを自ら設定できる能力や、臨床での課題を発見し解決する能力を身につけさせるとともに、他者からの視線にさらすことにより高い倫理性を身につけさせます。また、基本的に科学論文を英語で読むことを必要とするため、英語で行われる講義の受講、英語による研究発表を行うことにより、高度な国際性を身につけさせます。

<学修内容及び学修方法>

博士前期課程では、2年間以上在学しその間に専門科目、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目をそれぞれ所定の単位数を充足し、必要な研究指導を受けた上、指導教員から論文指導を受け修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格すれば修了し、学位を授与します。なお、高度教養教育科目、高度国際性涵養教育科目については、研究科において履修が認められた場合、修得した単位を所定の単位に充当します。

基本的にひとつの研究テーマに取り組めます。実験計画、実践、結果の解釈と分析、次の実験の方向性と具体的な項目の設定を丁寧にやっていき、最終的に未知の領域に踏み込んでいきます。そのためには現状、世界的にその課題についてどこまで分かっているかを常にキャッチしておく必要があります。週1回の講義によって他分野の研究についても考察し、自分の考えを述べ、自分のテーマ以外でも見識を広め考える力を養います。自考力、協調性、課題解決能力が要求され、それぞれを独自の方法によって修得できる/評価できる学修体系になっています。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、講義内でのプレゼンテーション及びレポートによって、シラバスに記載された学習目標への到達度をもとに評価します。講義、セミナーの出席はもちろんですが、普段からの研究に取り組む熱意、議論と組織人としての献身的な態度、他人との協調性について

も重視し、最終的には出来上がった研究成果＝学位論文を含めて評価します。

医学系（保健学専攻）がんプロ

地域の病理医不足を補う病理・細胞診断コース

修士（保健学）

カリキュラムマップ

	研究科学習目標					1年				2年				
	最先端かつ高度な専門性と深い学識	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン力	独自の学習目標	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
高度な教養 ○医療専門職としてふさわしい高い倫理観と人間性を身につけ、常に医療のプロフェッショナルであるという自覚のもとに、社会の発展のために積極的に貢献できる	○	○		○	○	高度教養教育科目								
最先端かつ高度な専門性と深い学識 ○医療科学、特に細胞検査学の領域で研究を遂行できる基礎学力と高度な専門性と深い学識・教養、高い倫理性を備えている	○	○				専門科目・実習科目 病理細胞診断学特論Ⅰ, Ⅱ, 分子病理学特論								
独自の学習目標 ○ボーダレスデザイン、オリジナリティーを優先し、将来の医療へ貢献できる研究を推進できる能力を有している	○		○	○	○									
高度なデザイン力 ○学問の府たる大学としての自主性、独創性があり、研究の視点として理論と実証の両面を備える研究テーマを設定できる	○	○	○	○	○	医療技術科学ゼミナールⅠ・Ⅱ								修士論文 発表会
○課題に対する新たな評価法を提案でき、問題解決能力を身につけ、基盤技術の構築ができる	○		○	○										
高度な国際性 ○国際専門誌の読解力と、自身の研究の社会への説明能力を有している			○	○										